

もしもしフォーラム

読者の皆さんとコミュニケーションをとりたい。
そんな思いを込めた情報ページ「もしもしフォーラム」では、
身近なニュースから心あたたまる話題まで、皆さんに役立つ情報をご紹介します。

イントロダクション

セクション紹介

臨床工学部

病院にはさまざまな機器があり、患者さんの治療や検査に使用されています。

それらの医療機器が正しく安全に使用されるように、医療機器の専門家として臨床工学技士が誕生しました。

国家資格ができたのは1987年で、今年でちょうど20年となります。現在、全国で約23,000人の技士が活躍していますが、臨床検査技師の10分の1程度しかおらず、一般の人にはほとんど知られていません。中には医療従事者でさえ、臨床工学技士が何をやっているか知らない人もいます。

そんな存在が薄い私たちですが、病院内では大切な仕事をたくさんしています。ここで少しだけ分かりやすく紹介したいと思います。

法律による臨床工学技士の定義は、以下のようになっています。



『医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とする者をいう。』

ここでいう生命維持管理装置とは、人工心肺装置、血液浄化装置、人工呼吸器などのことをいい、命に直結するような大切な機器です。具体的には、人工心肺装置は心臓の手術の時に一時的に心臓の機能を停止させるため、心臓と肺の機能を代行する装置です。

血液浄化装置は血液をきれいにする機器全般を指します。その中でも代表的な装置が血液透析装置です。透析装置は、正常に機能しなくなった腎臓の代行を行う装置のことをいい、全国で25万人以上の方が治療を行っています。人工呼吸器とは、呼吸を代行する機器です。

私たち臨床工学技士はこれらの機器の操作を担当し、患者さんの治療が安全に行われるよう努めています。また、それ以外にも病院内で使用される医療機器(当院保有台数、約90種類、750台)は私たちが管理し、定期的な点検や修理を行っています。

以上、当院での臨床工学技士の仕事を紹介しましたが、若い職種なので各病院によって、その仕事内容はさまざまです。なかなか確立したものがないため大変なこともある反面、さまざまなことにチャレンジできるやりがいのある仕事です。



読者からのお便り

緑内障(あおそこひ)の話

渋谷区在住
吉國 一郎さん



私は20年程前に日本医師会の医療政策会議の議長として6年間お手伝いをしたことがあります。そこで教わった知識として、日本の医療の中で最近特に発達したのは眼科と歯科だということでしたが、そのことを身をもって実感した、私の緑内障の治療についてお話をさせていただきます。

眼球には房水という水が入っていて、一定の内圧(眼圧)に保たれていますが、その排出が妨げられると圧力が高くなって目の機能にいろいろな障害が出てきます。これが緑内障です。似たような名前の障害に白内障(しろそこひ)、黒内障(くろそこひ)というのがあります。緑内障になると視神経に影響が出て、視野が狭くなります。また眼圧が急に高くなると激しい眼痛、頭痛、吐き気、視力低下などの症状が起こります。お子さんの場合は大人と違って眼球が固まっていないので、眼圧が上がると黒目が大きくなって牛の目に似てくるため、昔は牛目といったそうです(黒目がちの美人というのは危ないかもしれませんね)。

緑内障の治療は眼圧を正常な範囲に戻すことです。そのために眼圧を下げる点眼薬を使うのですが、ひどければ手術になります。私はその手術を受けましたので、その体験についてお話いたします。

平成元年12月9日、朝起きますと右目がいちごのように真っ赤に充血してほとんど見えません。右の目から右の頭にかけて激痛がします。10日に木挽町医院(私の学友で診療所を開いているホームドクターの宮崎先生)でCTスキャナーにより頭部を診てもらいましたが全く異常はなく、目から来ているのだとのこと。宮崎先生の紹介で東京女子医大病院の救急窓口に行きますと、眼科の急患が多いと見え、ちゃんと眼科の先生がおいでになり、応急の手当てと点滴をしていただきました。

た。11日に眼科の野崎先生の診察を受け急性の緑内障と診断され、すぐに内田院長(眼科部長兼任)の診察でレーザー治療をすることになりました。本来なら入院して点滴をしながら手術をするのですが自宅も近いので通院ですることになり、すぐに手術室のような所に入りました。目の検査をする台の前に腰を掛けると、時計屋さんが時計を調べる時はめるレンズのような器具をまぶたの内側に入れて、向こう側からレーザー光線を照射します。その光線の刺激による痛みより、まぶたに入っているレンズのような器具による痛みの方が何倍も痛いように感じました。涙が出て止まりません。大きなハンカチ2枚がビショ濡れになってしまいました。


こうした治療を週に1、2回続けているうちに困ったことが出てきました。その頃、私はいろいろな仕事をしており、そのうちの一つが日本野球機構のコミッショナーの仕事でした。米国との間の“日米試合に関する協約”が不備となったので、その協約を作り直すために、米国に行かなければならず、治療が中断されるかもしれないことになりました。内田院長に相談しますと、視力はかなり回復し炎症も治癒しており、眼圧も正常とのことでした。米国渡航が許されました。

このような経過を経て、平常通りの生活ができるようになりました。

その後、東京女子医大病院からNTT関東病院に移って、谷野眼科部長に診ていただき、2、3回手術をしていただき今日に至っております。昨年からは日本大学医学部附属病院の沢病院長(眼科部長兼任)にご紹介をいただき、治療用のソフトコンタクトレンズを装着し、視力もかなり回復いたしました。ありがたいことと感謝申し上げます。なお、現在の手術は私の時とはかなり変わっているとのことでした。

リレーエッセイ 江戸前を食す

病理診断部 前技師長
畔川 一郎



江戸前とは、文字通り江戸の前方、つまり江戸の前面にある海を指す言葉で、江戸の近海で獲れる新鮮な魚介類を江戸前といい、以前はアオギスの脚立釣りや、和船でねるハゼ釣りなど江戸前の風物詩があったそうである。

開発により、干潟が激減したが江戸前(東京湾)は元気があり、魚の宝庫でもある。

東京湾に生息する魚は非常に多く、春・夏・秋・冬と四季を通じていろいろな魚を釣って楽しむことができる。シロギス・ハゼ・カレイ・アナゴ・イシモチ・アジ・タチウオなどなど。

波止釣り、砂浜での投げ釣り、船での釣りなど釣りの好みもたくさんあるが、ここしばらくの間、乗合船での釣りを楽しんでいる。

釣行前の準備・船上での釣り・帰ってからの酒の肴と3度楽しめるのもなかなかよい。

釣行回数が多いのは、手軽なシロギス釣りで、パールピンクに輝く魚体は美しく、魚のあたり・ヒキともに上品で釣ってよし、また食べてもよしで好きな釣りのひとつである。

釣果の目標は、まず“ツ抜け*”である。それから日並みがよければのんびりと1日波にゆられてでき

ればと思いつつ楽しんでいる。釣って楽しく、また食してもたいへん美味であり、釣り人にかかわることのできない至福の時を感じる。

【シロギスの食し方を紹介】

- 刺身…3枚におろし皮を引き、糸造りにし食すと白身で品がありコリコリして非常にうまい。
- てんぷら…背開きにし、中骨を取って揚げると身がふわふわでトロケソウ。
- 潮汁…あらを使って作ると、さっぱりしているがコクがあるスープができる。
- 骨せんべい…中骨を使い油で2度揚げするとパリパリとても香ばしい。

また走水周辺で釣れる松輪のアジは格別である。アジは周年獲れるが夏アジといわれるように初夏から秋口にかけてのマアジが最高とされている。

魚体は黄金色に染まり、脂ののりはマグロのトロにも匹敵するくらいの味、太刀魚の刺身や一夜干しも脂がのって実においしい、ぜひご賞味あれ。

皆さん、今晚の食卓に新鮮でうまい魚をいかがですか？

※ツ抜け：10尾以上釣ること

ボイス かかりつけ医はどうやって探すの？

“もしもし”を読ませていただきました。その中で「かかりつけ医を持ちましょう」と推奨していましたが、患者の立場としても信頼できる医師に巡り合う、ということは痛切な願いです。しかし、現状はその逆でなかなか信頼・安心できる医師に巡り合えません。良い医師を探すために何軒もの「医者通い」をしなくてはならないのです。

病院からひとこと

この度は、当院へ貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

いただきました当院の「かかりつけ医を持ちましょう」という推奨についてのご意見ですが、急性期治療が必要な急性期疾患の患者さんは中核の病院を受診し、急性期治療が済み、病状が安定したら、以後はかかりつけ医の先生に診ていただくようにする。このようにそれぞれに施設ごとの得意分野、特色を生かし、お互いに補完しあう方法で、患者さんにとって最適の診療を実現することが、これからの医療の目指すべき姿であると思います。

このことから、当院はもとより、医療界では患

患者さんからの声

院内で意見箱に寄せられたメッセージ

重篤な患者さんをいつでもスムーズに診られるよう、病院と診療所の役割分担を明確にするのは大切なことである、というのは理解していますが、良いかかりつけ医の先生を見つけにくいのも事実です。良い医師はどのようにして探したらいいのでしょうか。

者さんにかかりつけ医を持っていただくことを推奨しております。

かかりつけ医がご不明な場合は、現在、受診されている当院の医師にご相談ください。また、品川区においても、かかりつけ医紹介窓口を開設しています。

患者さんの身体のことを一番分かっている、かかりつけ医の先生との信頼関係が築かれることによって、その先生が本当の意味で良い医師になるのではないのでしょうか。

ぜひ、この趣旨をご理解いただき、かかりつけ医の推奨にご協力をお願いいたします。

健康レシピ 今月の行事食 子どもの日(5月5日)

【献立】 *かつおのたたき *茶碗蒸し *煮浸し *山芋わさび酢 *ごはん *すまし汁 *果物

かつおのたたきの作り方

【材料・分量】 *かつお 100g *酢 ~大さじ 1/2 杯 *塩 ~ひとつまみ *ポン酢 *大根 *玉ねぎ *ラディッシュ *大葉 2枚 *レモン (薬味) *大根 *しょうが *にんにく

- 【作り方】
- 1 かつおは皮目を下にしてまな板に置き、真ん中と両側に金串を刺す。金串を持って、皮目の方から強火の遠火で1~2分あぶり、返して身の方も同様に焼く。(金串は回しながら抜くとよい)
 - 2 焼いたカツオは、すぐに氷水につけて粗熱を取り、ペーパータオルで水気を拭き取り、1cmの厚さに切る。



3 塩ひとつまみと酢大さじ 1/2 杯を合わせて②にふりかけ、ラップに包んで冷蔵庫で30分以上冷やす。

4 大根(つま)・大葉の上に③を盛り付け、水にさらしたスライス玉ねぎと、ラディッシュ、レモンを飾る。

5 ポン酢に薬味を加えていただく。
古関 義広 エムサービス株式会社

投稿コーナー “もしもし”投稿コーナー川柳募集

141-8625

東京都品川区東五反田5-9-22
NTT東日本 関東病院
もしもし川柳コーナー係

“もしもし”では、読者の皆さんからの川柳を募集しています。皆さんからのすてきな川柳をお待ちしております。
テーマ：医療・健康
応募締め切り：平成19年7月20日(金)
応募方法：ハガキ、もしくは関東病院に備え付けの投稿箱にて、ご応募ください。「作品」、「雅号(ペンネーム)」を明記してください。
応募あて先：ハガキにてご応募いただく際には、右のあて先にお送りください。

発表：“もしもし”Vol.18(9月発行)上で発表いたします。
掲載された場合でも、賞品などはございません。
応募上の注意：・応募作品は、本人が創作した未発表のものに限ります。
・応募作品は、返却いたしません。

編集後記 リニューアルした新“もしもし”はいかがでしたか？ 皆さんにより親しまれる“もしもし”を目指し、これからも新しいコーナーやアイデアを形にしていきたいと思っております。今春、広報ワーキング委員長と事務局が異動し、新しい体制となりましたが、「読者の皆さんと一緒に医療を考える場にしたい」という創刊からの思いは変わりません。これからも“もしもし”をどうぞよろしくお願いたします。
諸橋 良樹